

第52号

本願寺西山別院報

久遠

-QUON-

〒615-8107
京都市西京区川島北裏町
29番地
Tel:075-392-7939
Fax:075-394-4416
e-mail: nishiyamabetsuin@
msa.biglobe.ne.jp



ご縁を喜び、お念仏とともに

親鸞聖人御誕生

50
立教開宗
800

本願寺西山別院 輪番
得度習礼所・教師教修所所長
西山幼稚園園長

中原敬恵



諸行無常

新年早々、能登地方において大きな地震があり、人々の生活が一変しました。そして、世界のあちらこちらでは、毎日のようにいのちが奪われる戦争が続いています。

「形あるものは必ず壊れる」

それは分かっている、驚きと悲しみと絶望感があふれてきます。

二十九年、阪神淡路大震災が起こったとき、大きく傾いた実家の本堂を見て「どうなるん？」と思っただけを思い出します。障子一枚外せない本堂から、隙間をくぐって阿弥陀さまを連れ出し、佛具を持ち出したあの日。お陰さまで新しい本堂が建っております。門信徒を始め多くの方が心を寄せ、復興に力を貸してくださいました。

私たちが人間の作り出したものは、



壊れることもあるけれど、復興することも、新しく作り出すことも出来ます。お互いを思いやって少しづつ前へ進めるよう、微力ながら、皆さまと共に寄り添い応援していきたいと思えます。

四食の教え

先日、幼稚園関係の研修会の中で、「四食の教え」についてお話を聞きました。「食」というと食べることだけを思い浮かべますが、体と心を成長させ、生命を維持するために必要な物事を食べ物として例えているのが「四食の教え」だそうです。

一つ目は「段食」。これは、いわゆる食事のこと。肉食でも菜食でも「いのち」を頂いて人間としての生活を送らせてもらっていること。いのちを食べた人間は、頂いた「いのち」と共に生きていくのです。

二つ目は「識食」。見る・聞く・味わう・嗅ぐなどから認識し習得すること。相手や物を認識することで、心と体を発達維持する、いわゆる精神の成長。

三つ目は「触食」。人と触れ合い、助け合い、他者と共に生きていくこと。人に助けられることも、人を助けることもあるのが人間であって、「ありがとう」と感謝する心を持つと同時に、「ありがとう」と感謝されることを知ること。

四つ目は「意(意)思食」。私たちの意識や欲求が、心

と体を発達させること。自分の願いと共に、周りの人から、何より阿弥陀さまから願われていることに気づき、自分の「いのち」の大切さを知る。

私を生かすということ、私の「いのち」が生かすという事は、一人では成し遂げられないのだと改めて思いました。阿弥陀さまに願われ、両親に願われて生まれた「いのち」、誰かと触れ合い共に生きる「いのち」、色々なことを学び習得する「いのち」、いのちを頂いて生きる「いのち」。幼児教育としてだけでなく、私たち大人も、人間が操ることのできない「いのち」の大切さと、他者とのご縁のありがたさを感じ取らなければならないというお話でした。

世の中安穏なれ

親鸞聖人は「世の中安穏なれ 仏法ひろまれ」とお手紙の中でお書きくださっています。私たち人間は、我執という自己中心性から離れることができません、むさぼり・いかり・おろかさ流され、「いのち」をいきています。そんな私そのままを、阿弥陀さまは願いの中に摂め取ってくださいます。他者もそのままにお互いを認め合い、安らかに穏やかに阿弥陀さまの願いに包まれて生きる。お念仏に耳を傾けながら、共に生きていきませんか？

本年六月に、「本願寺西山別院 親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお勤めいたします。一緒に、親鸞聖人がお示しくくださった阿弥陀さまの願いを聴かせて頂きましょう。そして、私の「いのち」を生かすことについて、共に考えてまいりましょう。

